

令和4年2月4日

世田谷区立笹原小学校  
校長 後藤 真司 様

世田谷区立笹原小学校学校関係者評価委員会  
委員長 鈴木 聡志

## 令和3年度 学校関係者評価委員会報告書

### 1 はじめに

令和3年度世田谷区立笹原小学校学校関係者評価委員会は、世田谷区教育委員会作成「世田谷区立学校 学校評価システム」に基づき、本校の取組の成果について評価し、ここに報告する。

本報告書作成に用いた資料は次の通りである。

- ・ 児童アンケート（対象は5・6年生）
- ・ 保護者アンケート
- ・ 地域の方々アンケート
- ・ 学校評価（自己評価）
- ・ 教職員との意見交換
- ・ 学校公開期間中の授業見学
- ・ 学校行事の見学
- ・ 委員が学校を訪問した際の非公式な教員との会話と授業見学

### 2 重点目標について

令和2年度の学校関係者評価を受け、学校長は今年度の3つの重点目標を設定した。それらは以下の通りである。

- 主体的な学びを通した思考力・判断力・表現力の育成
- 多様性を認め合い、よりよい集団をつくる子どもの育成
- 自分の健康に関心をもち、よりよい生活をつくる子どもの育成

学校関係者評価委員会は重点目標がどの程度達成できたかを確かめるため、児童アンケートと保護者アンケートと地域の方々アンケートに独自の評価項目を作成して調査を行った。その結果は表1の通りである。数値は「とても思う」と「思う」の合計（％）である（以下「肯定的回答」）。

重点目標「主体的な学びを通した思考力・判断力・表現力の育成」に関する項目では、児童の4人に1人が肯定的回答をしたが、保護者の肯定的回答はそれより10%以上低かった。

重点目標「多様性を認め合い、よりよい集団をつくる子どもの育成」に関する項目では児

童の肯定的回答は約8割だったが、保護者の肯定的回答はそれより20%近く低かった。

重点目標「自分の健康に関心を持ち、よりよい生活をつくる子どもの育成」に関する項目では、児童と保護者の肯定的回答はともに約9割で、一方、地域の方々の肯定的回答は低かった。

児童には自分自身のことについて質問し、保護者と地域の方々には本校の子どもたちが本校について質問するというように、重点目標について児童と保護者と地域の方々には異なる評価項目が使われた。そのため3者間の結果の違いを直接比較することができない。また保護者と地域の方々には本校の子どもたち全体についての評価が難しかったようで、「わからない」の回答が多かった。こうした限界はあるが、重点項目はいずれも概ね達成されたと評価してよいだろう。

表1 3つの重点目標に関する評価項目の結果

評価項目	「とても思う」と 「思う」の合計(%)
<b>重点目標：主体的な学びを通した思考力・判断力・表現力の育成</b> 私は、よく考えて判断し、表現することができる。(児童アンケート) 本校の子どもたちは、よく考えて判断し、表現することができる。(保護者アンケート)	75.1 62.8
<b>重点目標：多様性を認め合い、よりよい集団をつくる子どもの育成</b> 私は、自分の良さや友達のよさを見付けることができる。(児童アンケート) 本校には、多様性を認め合う雰囲気がある。(保護者アンケート)	80.7 62.5
<b>重点目標：自分の健康に関心を持ち、よりよい生活をつくる子どもの育成</b> 私は、手洗いやマスクの着用など健康に気を付けている。(児童アンケート) 本校の子どもたちは、感染症の予防等健康に気を付けている。(保護者アンケート) 本校の子どもたちは、感染症の予防など、健康に関わる取り組みをしている。(地域アンケート)	91.0 87.5 68.3

### 3 独自の取組について

一昨年度から学校関係者評価委員会は笹原小学校独自の取組を評価の対象とすることになっている。今年度も言語活動、笹の子班活動、新しい教育活動の3つを取り上げることとし、児童アンケート、保護者アンケート、地域の方々アンケートの独自項目を作成した。その結果は表2の通りである。数値は肯定的回答の%である。

「言語活動」では児童・保護者ともに肯定的回答が7割台で、児童・保護者ともに昨年度の結果とほぼ同じだった。

「笹の子班活動」では児童・保護者ともに肯定的回答が約8割で、児童・保護者ともに昨年度の結果とほぼ同じだった。

「新しい教育活動」では保護者・地域とも肯定的回答が過半数だった。保護者は昨年度より 10%以上上昇し、地域は昨年度より約 10%低下した。ただし「わからない」の回答が保護者で 13.8%，地域で 39.0%だった。

本校独自の取組は本校に定着していると言ってよいだろう。特に「笹の子班活動」は、昨年度同様新型コロナウイルス感染症防止のため教育活動に制限のある中で、活発な活動が行われたことは高く評価できる。「新しい教育活動」は昨年度より保護者に周知されたが、それでも一部の保護者は知らないままである。地域の方々はまだ知らない方が多い。

表 2 笹原小学校独自の取組に関する評価項目の結果

評価項目	「とても思う」と 「思う」の合計(%)
<b>言語活動</b>	
私は、朝読書など読書活動を楽しんでいる。(児童アンケート)	75.2
子どもたちは、読書活動を楽しみ、読書に親しんでいる。(保護者アンケート)	79.1
<b>笹の子班活動</b>	
笹の子班活動を通して、上学年や下学年の子どもたちと仲良く活動することができている。(児童アンケート)	79.9
笹の子班活動は、子供たちにとって有意義な活動であると思う。(保護者アンケート)	84.5
<b>新しい教育活動</b>	
本校は、英語や外国語、ICT の活用など新しい教育活動に取り組んでいる。(保護者アンケート)	69.3
本校は、英語や外国語、ICT の活用など新しい教育活動に取り組んでいる。(地域アンケート)	58.3

#### 4 経営の重点について

今年度の経営の重点の中から、「教員の資質と指導力の向上」と「課題解決のできる組織体制『チーム笹原』を充実させる」の2つを取り上げた。前者については自己評価内の該当する項目と、教職員との意見交換を資料とした。後者については保護者アンケートの独自項目と、自己評価内の該当する項目と、教職員との意見交換を資料とした。

##### (1) 教員の資質と指導力の向上

自己評価では「校内研究会・研修会が充実している」「世小研の活動に積極的に参加している」で評価が高かった。

教職員との意見交換では、他の教員から学んでいることや、各種の研修が有意義であることが伺えた。

本校の教員は自主的に資質と指導力の向上に努めていて、また本校はそれを支える研修

の機会が充実しているようである。

(2) 課題解決のできる組織体制「チーム笹原」を充実させる

組織体制について尋ねた保護者アンケートの評価項目では「わからない」の回答が多かったが、約4割が肯定的回答をした(表3)。

自己評価では、「校長の経営方針は明確に示されている」「教職員一人一人が主体的、組織的に教育活動を行っている」「問題意識や悩みを気軽に話し合える職場になっている」の評価が高かった。

教職員との意見交換では、教員同士で話し合いやすいこと、何かあった時は情報共有ができていて、職場の雰囲気が良いことが伺えた。

本校の組織体制は組織の部外者である保護者には見えにくく、そのため評価しにくかったようだ。しかし内部の人間である教職員は、本校の教職員間のコミュニケーションは良好で、職場の雰囲気は良く、組織的に動くことができていると感じている。

表3 組織体制に関する保護者アンケートの評価項目の結果

評価項目	「とても思う」と「思う」の合計(%)	「わからない」(%)
本校は、課題解決のできる組織体制「チーム笹原」を充実させている。(保護者アンケート)	37.2	38.9

## 5 気になる学年

今年度も学年間で差のある項目があった。児童アンケートで5年生と6年生の間に肯定的回答に10%以上差があった評価項目を表4に示す。これらはすべて区作成の項目で、独自項目で10%以上差があった項目はなかった。

5年生より6年生で肯定的回答の割合が低い評価項目が多かった。表中の評価項目で5年生だった昨年度の結果と比較すると、昨年度より肯定的回答の割合が上昇したのは「映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。」(昨年度69.2%)、「先生たちは、ていねいに指導してくれる。」(昨年度73.4%)だった。昨年度より肯定的回答の割合が低下したのは「学校行事は達成感がある。」(昨年度90.8%)、「先生は児童の意欲を大切にしている。」(昨年度67.7%)、「先生たちに相談できる。」(昨年度61.9%)だった。

昨年度の学校関係者評価委員会報告書では当時の6年生を前年度に引き続いて気になる学年としたが、区作成の評価項目で当時の5年生が6年生より肯定的回答の割合が低い項目が多くあったことには注目しなかった。今年度の6年生は昨年度すでに課題を抱えていて、今年度授業の面では改善があったがそれ以外の面では改善がなかったようである。

学校行事の達成感が5年生より6年生で低かったのは昨年度と同じある。最上級生としての責任感のため達成感が低くなるのかもしれない。また昨年度と同様新型コロナウイルス感染症対策のため活動が制限されたため達成感が低くなったのかもしれない。

表 4 5 年生と 6 年生の回答で 10%以上の差があった項目

評価項目	「とても思う」と「思う」の合計（％）	
	5 年生	6 年生
先生は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。	93.2	75.9
私は、学校のきまりを守って、行動している。	94.4	72.5
先生に注意されたことは、理解できる。	94.4	75.9
学校行事は楽しい。	93.2	75.9
学校行事は達成感がある。	82.5	67.2
先生は、児童の意欲を大切にしている。	92.1	55.1
区立中学校に関する情報が提供されている。	40.9	56.9
先生たちは、ていねいに指導してくれる。	92.1	81.0
先生たちに相談できる。	82.1	58.6
学校生活は楽しい。	92.2	77.6
学校が好き。	87.5	67.3
私は、家庭で宿題や e-ラーニングでの学習をしている。	79.8	58.7

## 6 総合所見

本校の教育活動と学校運営は概ね良好である。

1 つだけ課題を指摘するなら、本校の良さが保護者と地域の方々に正確に伝わっていないことである。『学校だより』は現在文章が主になっているので、新しい教育活動について写真やイラストを使って知らせてみてはどうだろうか。教員が資質と指導力の向上に努めていることや組織体制が充実していることについては基本的に内部の問題なので、保護者らに知ってもらふ必要性は低い。このため緊急の課題ではないが、保護者の信頼を得るために折にふれてこの件について情報発信をしてもよいだろう。

今年度は 6 年生を「気になる学年」として指摘した。6 年生の評価項目で肯定的回答の割合が低い項目が多かったのは、最上級生のためなのか、それともこの学年特有の理由によるものなのか、一度検討していただきたい。また、保護者アンケートをみると、2 年生では「本校は安全な学校づくりを進めている。」について、3 年生では「本校は、教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子どもが理解している。」について否定的な回答が多いのが気になった。あわせて検討していただきたい。

笹原小学校学校関係者評価委員会委員

小澤利喜男 菊池実香 熊谷典子

黒河内倫子 鈴木聡志 棚網純子

(五十音順)

事務局 小林保子 境野孝徳 大橋佑基

＜参考資料＞

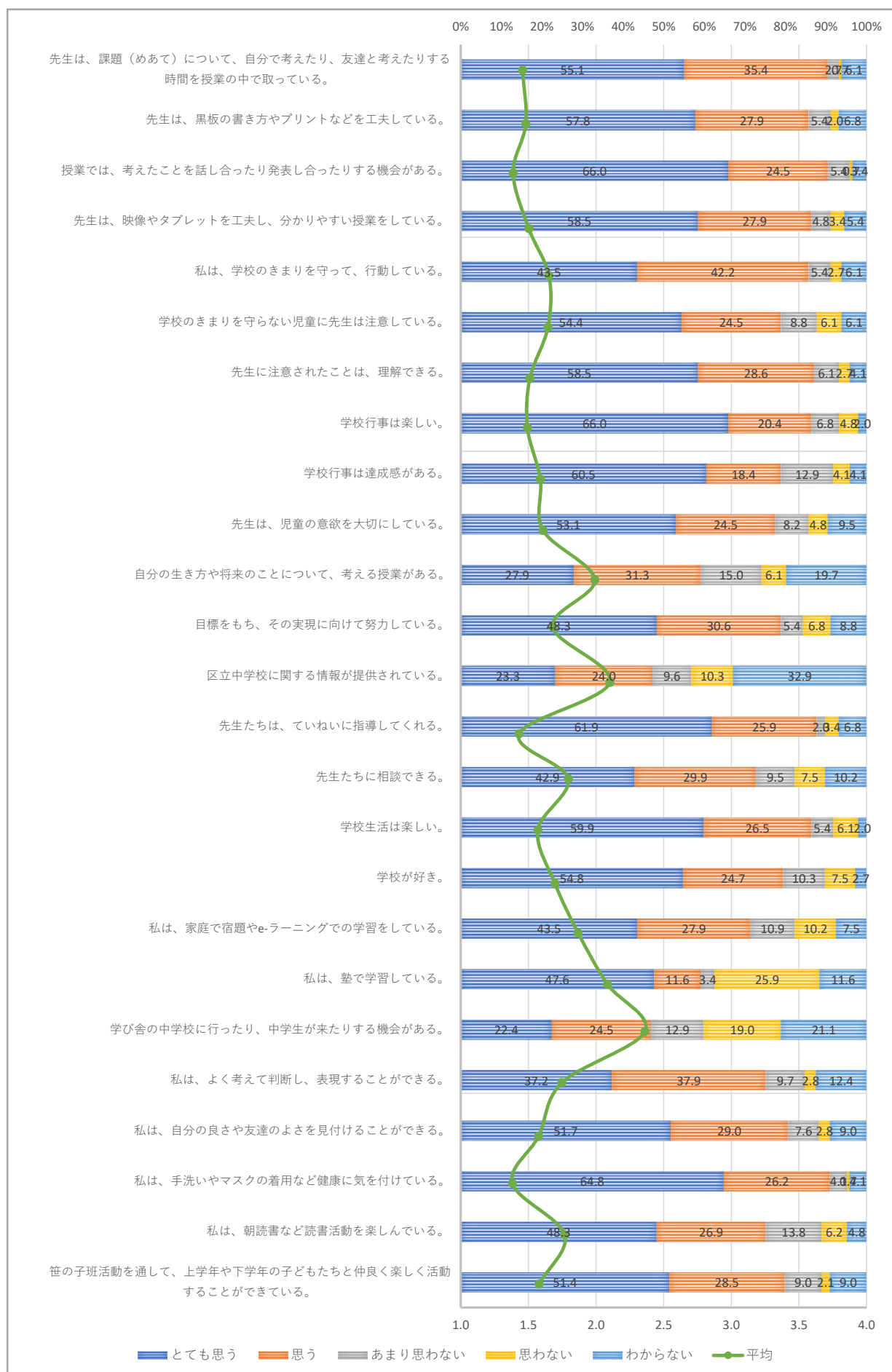
学校評価アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。

回収率については下記のとおりで、今年度も多くの皆様から貴重な回答をお寄せいただきました。委員一同、感謝申し上げます。

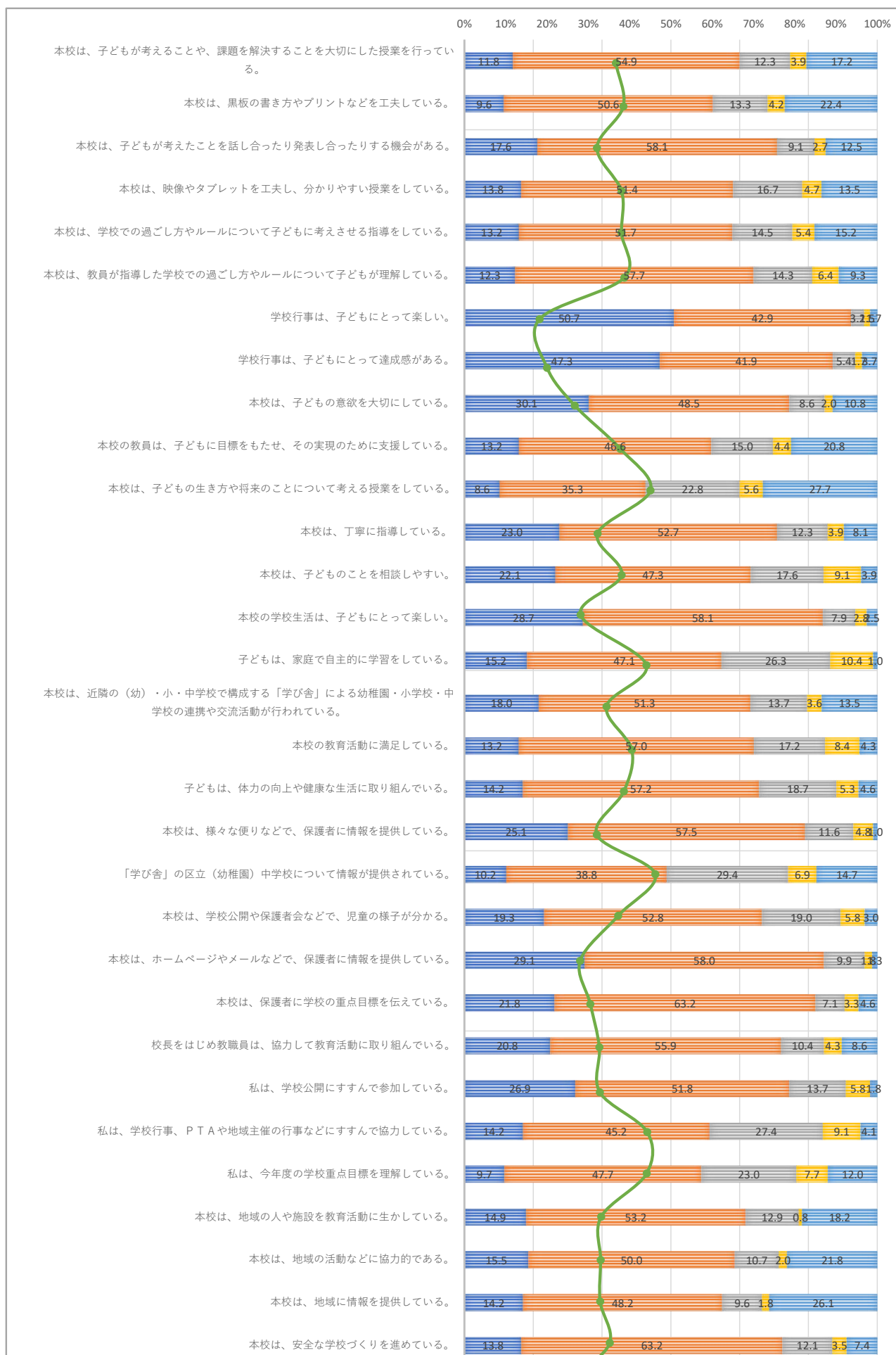
- ５・６年児童アンケート実施      １１月    ８日（月）～１２日（金）
- 保護者・地域アンケート配布      １１月    ５日（金）
- 保護者・地域アンケート回収      １１月１８日（木）

対 象 者	配布数 (実施数)	回収数	回収率（％） (小数第一位を四捨五入)
児童（５・６年）	１５４	１４７	９５％
保 護 者	４６９	４０８	８７％
地 域	５１	４１	８０％

## ＜参考資料＞児童アンケート(5・6年)の回答分布



## ＜参考資料＞保護者アンケート(1～6年)の回答分布





本校は、避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている。

本校は、自然災害時の対応を子どもや保護者に提供している。

本校の子どもたちは、よく考えて判断し、表現することができる。

本校には、多様性を認め合う雰囲気がある。

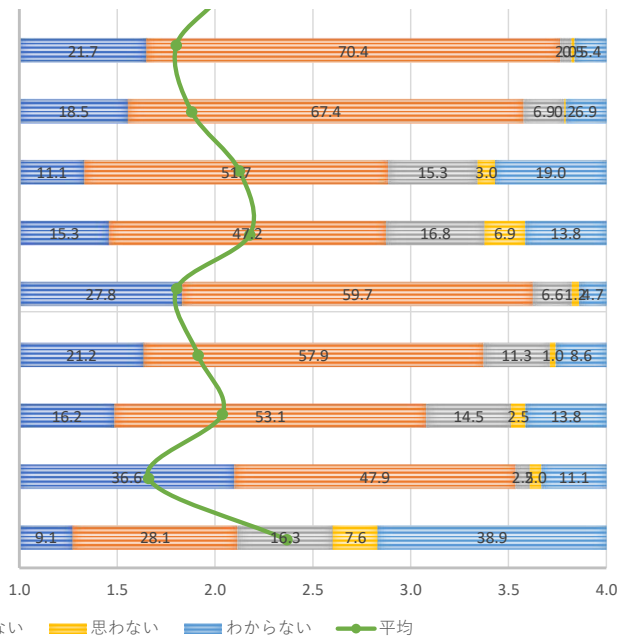
本校の子どもたちは、感染症の予防等健康に気を付けている。

子どもたちは、読書活動を楽しみ、読書に親しんでいる。

本校は英語や外国語、ICTの活用名で新しい教育活動に取り組んでいる。

笹の子班活動は、子供たちにとって有意義な活動であると思う。

本校は、課題解決のできる組織体制「チーム笹原」を充実させている。



## ＜参考資料＞地域アンケートの回答分布

